

2020年度 第1四半期報告の概要

2020年8月7日
明治安田生命保険相互会社

新型コロナウイルス感染症の影響をふまえ、さまざまな対応を行なっております

お客さま

○「お客さま志向」の取組方針に基づき、お客さまにご安心いただけるよう、以下のお取扱いを実施しています

- ① 保険料払込猶予期間の延長、および保険料払込猶予期間中の未払保険料分割払込のお取扱い
- ② 新規契約者貸付に対する利息の免除
- ③ 新型コロナウイルス感染症を原因とした死亡・高度障害に対する災害死亡保険金等のお支払い
- ④ 臨時施設等または自宅で療養した期間についても、医師または医療機関等の証明をもって、
入院給付金・入院治療給付金をお支払い

など

※最新のお取扱いにつきましては、当社公式ホームページ等をご確認ください

地域社会

「私の地元応援募金」の実施
【総額5.2億円】

・コロナ禍の影響により全国各地域で支援を必要とする自治体や医療機関、福祉施設等を対象に、従業員募金と会社寄付のマッチングによる「私の地元応援募金」を実施

「あしなが育英会」への寄付
【1億円】

・コロナ禍の影響で生活が圧迫されている遺児家庭への支援を目的とした寄付を実施

東京都および大阪府への寄付
【総額1億円】

・地域社会支援の一環として、東京都と大阪府に各5,000万円を寄付

寄付先：東京都「守ろう東京・新型コロナ対策医療支援寄附金」・大阪府「大阪府新型コロナウイルス助け合い基金」

Jリーグとの「特別協賛」
契約の締結

・Jリーグ・Jクラブの活動再開までの支援、およびコロナ禍を乗り越える地域社会を後押しする新たな協働取組みを行なうことを目的に、Jリーグとの「特別協賛」契約を締結

「道の駅」健活プロジェクト
の推進

・2020年6月に「『道の駅』健活プロジェクト」の共同推進に合意し、全国の「道の駅」を対象に、新型コロナウイルス感染症防止対策への支援を実施

従業員

新型コロナウイルス感染防止の取組み

- ・テレワーク等による在宅勤務、重要業務におけるシフト制勤務の実施
- ・全営業職員に貸与している社用スマートフォン（MYフォン）に新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）を導入するとともに、役職員にもアプリ導入を推奨

「MY Style～活動・マナー編～」の設定

- ・全社統一の感染予防対策として、入社前の検温、お客さまへの事前のアポイントを前提とした訪問営業、マスクの着用、お客さま要望に応じたフェイスシールドの着用等を推進

など

■経営計画の体系見直し

2020年度は、保険金・給付金の支払い等の基幹業務の確実な実行と、コロナ禍においてもお客さまに寄り添ったアフターフォローを提供できる態勢構築を優先し、単年度の経営計画「とことん！アフターフォロー特別計画」を推進しております。

「とことん！アフターフォロー特別計画」の概要

経営目標等	業績目標は設定せず、アフターフォローの進捗を測る指標等を「経営目標」に設定 また、その効果を測る「確認指標」と経営品質等を測る「検証指標」によって運営
重点方針	<p>お客さま志向の取組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険金・給付金のお支払い等の確実かつ丁寧な実行 ・お客さまへのきめ細やかなアフターフォロー
	<p>コロナ禍をふまえた追加的な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非対面インフラの整備・拡充 ・2「大」プロジェクトおよび社会貢献に関する取組みの推進
	<p>4「大」改革の先行実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「MY Mutual Way I期」で予定する4「大」改革の取組みの一部先行実施

特別取扱いの申込状況、保険金等の支払状況

■ 特別取扱いの申込状況

	～4月	5月	6月	合計
保険料払込猶予期間の延長	約0.4万件	約0.4万件	約0.2万件	約1.0万件
新規の契約者貸付	約4.2万件	約2.5万件	約1.8万件	約8.6万件

■ 保険金等の支払状況

	～4月	5月	6月	合計
死亡保険金	2件 580万円	19件 約1.0億円	27件 約1.6億円	48件 約2.7億円
うち 災害死亡保険金	0件 0円	3件 305万円	6件 約0.2億円	9件 約0.2億円
入院給付金	16件 292万円	92件 約0.1億円	264件 約0.8億円	372件 約1.0億円

1 「とことん！アフターフォロー 特別計画」経営目標進捗状況

- ・2020年度は、新たに策定した「とことん！アフターフォロー特別計画」のもと、お客さま・従業員の安全確保と、保険金・給付金のお支払いをはじめとする基幹業務の着実な遂行を前提に、業績目標は設定せず、お客さまへのアフターフォローを徹底する経営を推進
- ・当特別計画において経営目標に掲げる「お客さまアクセス数（個人営業・法人営業）」および「アドバイザー（営業職員）数」は順調に進捗

2 コロナ禍においても、引き続き高い健全性を維持

- ・**ソルベンシー・マージン比率は連結・単体ともに1,000%超え**
連結では、過去最高となった2019年度決算と同水準の1,113.1%と、引き続き高い健全性を維持
- ・実質純資産額は9兆8,120億円と、前年度末から3,153億円増加

3 グループ・単体ともに「減収減益」、2020年度業績はグループ・単体ともに「減収減益」の見通し

- ・グループ保険料は前年同期比11.6%の減少、グループ基礎利益についても同6.2%の減少
- ・グループ基礎利益（1,145億円）については減益となるも2017年以降の過去3ヵ年水準を維持
- ・2020年度業績は明治安田生命グループ・単体ともに「減収減益」の見通し

Ⅲ. 「とことん！アフターフォロー 特別計画」 経営目標進捗状況

項目	2020年度 目標値	実績値 (注5)		
		実績値	目標 達成率	
お客さまアクセス数 (個人営業) (注1)	500万人	291.5万人	58.3%	
お客さまアクセス数 (法人営業)	団体保険 加入者 (注2)	250万人	10.6万人	4.2%
	団体保険等 窓口 (注3)	6,800団体	1,186団体	17.4%
アドバイザー (営業職員) 数 (注4)	34,500人 (前年差+約1,000人)	33,921人 (2020年度始差+454人)	98.3%	

(注1) 営業職員等が対面・非対面を通じてアクセスした生命保険契約者の人数。

なお、営業職員の当社呼称は「MYライフブランドアドバイザー」(以下、アドバイザー)

(注2) 法人営業担当等がアクセス(団体・事業所を通じて行なう場合を含む)した任意加入の団体保険加入者の人数

(注3) 法人営業担当等がアクセスした既契約・窓販商品供給団体の団体数

(注4) 目標値は2021年度始の人数

(注5) 「お客さまアクセス数(個人営業)」は第1四半期累計値、「お客さまアクセス数(法人営業)」は7月22日までの累計値、「アドバイザー(営業職員)数」は7月1日時点

○「お客さまアクセス数(個人営業)」は291.5万人(目標達成率58.3%)と順調に推移

○「お客さまアクセス数(法人営業)」は、7月から本格的にアクセスを開始

○アドバイザー数は、2020年度始差454人増加と順調に推移

IV. 健全性指標

1. ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額、オンバランス自己資本

■ ソルベンシー・マージン比率

	2020年度 第1四半期会計期間末		2019年度末
		前年度末差	
連結ソルベンシー・マージン比率	1,113.1	△30.5 ^{ポイント}	1,143.6
ソルベンシー・マージン比率（単体） ^{（注1）}	1,048.0	△21.3 ^{ポイント}	1,069.3
ソルベンシー・マージン総額（A）	79,171	+4,858	74,312
リスクの合計額（B）	15,108	+1,209	13,899

（注1）ソルベンシー・マージン比率 = (A) / (1/2 × (B)) × 100

■ 実質純資産額（単体）

	2020年度 第1四半期会計期間末		2019年度末
		前年度末差	
実質純資産額	98,120	+3,153	94,966
一般勘定資産に対する比率	24.8	+0.3 ^{ポイント}	24.5

■ オンバランス自己資本（単体）

	2020年度 第1四半期会計期間末		2019年度末
		前年度末差	
オンバランス自己資本 ^{（注2）}	37,415	+88	37,326

（注2）資本性が比較的強いと考えられる部分に限定した内部留保、外部調達資本等

（単位：億円、%）

（単位：億円、%）

（単位：億円）

○ソルベンシー・マージン比率は、連結・単体ともに金融環境の変動等を受けて前年度末から減少したものの、いずれも1,000%を超えており引き続き高い水準を確保

・連結では1,113.1%と過去最高となった2019年度決算と同水準で引き続き高い健全性を維持

○実質純資産額は9兆8,120億円と前年度末から3,153億円増加

○オンバランス自己資本は、3兆7,415億円と前年度末から88億円増加し、引き続き高い健全性を維持

2. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

■ 一般勘定資産全体の含み損益（単体）

	2020年度 第1四半期会計期間末		2019年度末
		前年度末差	
一般勘定資産全体の含み損益	60,276	+4,255	56,021
うち時価のある有価証券（注1）	54,906	+4,274	50,631
うち公社債	24,752	△1,571	26,324
うち国内株式	21,636	+4,075	17,561
うち外国証券	7,920	+1,363	6,557
うち不動産	5,436	+7	5,428

（単位：億円）

○一般勘定資産全体の含み益は、6兆276億円と前年度末から4,255億円増加

○国内株式の含み益は、株価上昇に伴い、月中平均価格ベースで2兆1,636億円と前年度末から4,075億円増加

（注1）有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

■ 国内株式含み損益ゼロ水準（単体）

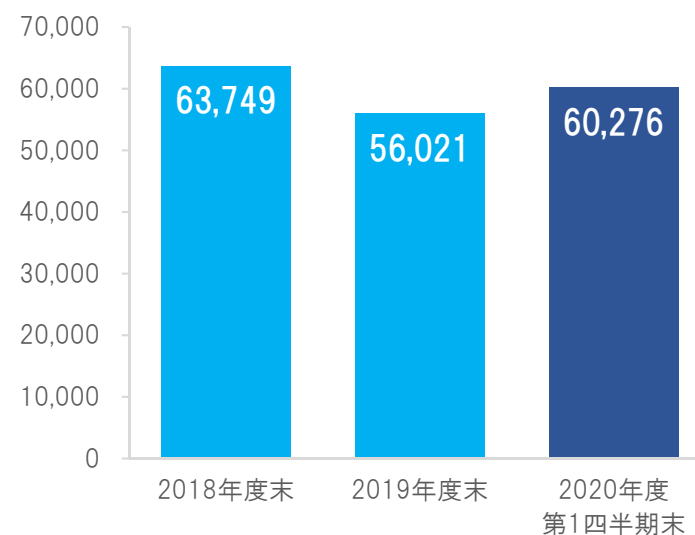
仮に当社ポートフォリオがTOPIXにフル連動とした場合

	2020年度 第1四半期会計期間末（注2）	2019年度末
TOPIXベース	670ポイント程度	660ポイント程度

（注2）日経平均株価ベースでは9,500円程度

■ 含み損益の推移

（単位：億円）



IV. 健全性指標

3. 契約クオリティ（総合継続率）

■ 総合継続率（注1・注2）の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：％）

	2020年度 第1四半期累計期間		2019年度 第1四半期累計期間
		前年同期差	
13月目総合継続率	95.0	+0.5 ^{ポイント}	94.5
25月目総合継続率	88.7	△0.6 ^{ポイント}	89.3
61月目総合継続率	71.4	+10.1 ^{ポイント}	61.3

○契約クオリティを示す総合継続率は、引き続き良好に推移

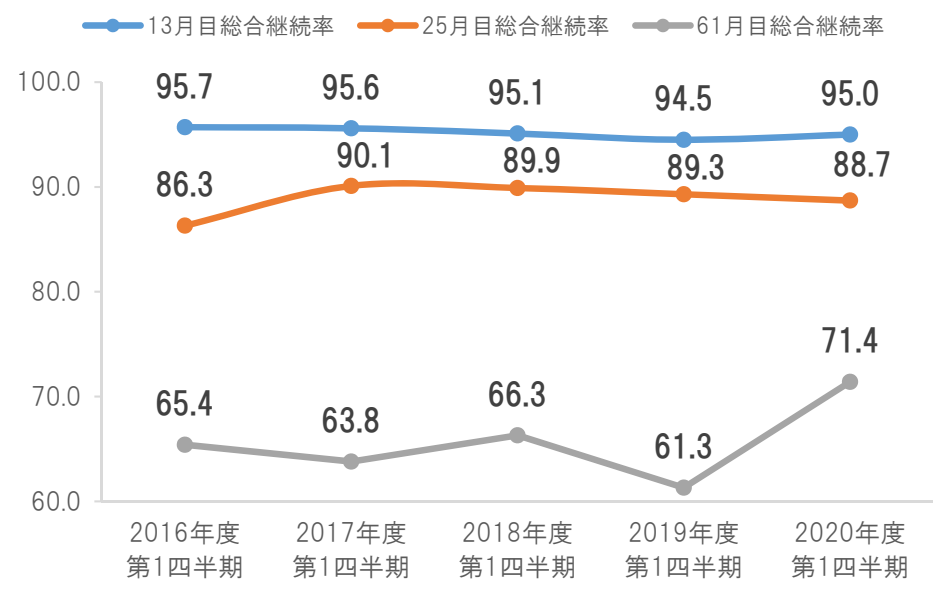
- ・13月目・25月目ともに高水準を維持するとともに、61月目は大きく向上

（注1）新型コロナウイルス感染症特別対応により保険料払込を猶予している契約については、正規入金されているものとみなして継続率の分母・分子に算入

（注2）総合継続率は、契約高ベースにて算出

■ 総合継続率の推移

（単位：％）



グループ保険料、グループ基礎利益

■ グループ保険料

(単位:億円)

	2020年度 第1四半期連結累計期間		前年同期比	2019年度 第1四半期 連結累計期間
グループ保険料 (注1)	6,478	△11.6%		7,330
明治安田生命単体	5,629	△13.7%		6,522
海外保険事業等 (注2)	849	+5.2%		807
うちスタンコープ社	781	+6.2%		735

○グループ保険料は、6,478億円と前年同期比11.6%減少

・スタンコープ社は前年同期比で6.2%増加したものの、明治安田生命単体の減少が影響

○グループ基礎利益は、明治安田生命単体の減少により、1,145億円と前年同期比6.2%減少

■ グループ基礎利益

(単位:億円)

	2020年度 第1四半期連結累計期間		前年同期比	2019年度 第1四半期 連結累計期間
グループ基礎利益 (注3)	1,145	△6.2%		1,221
うち明治安田生命単体	1,006	△9.6%		1,113
うち海外保険事業等 (注2)	160	△7.5%		173
うちスタンコープ社	121	△4.7%		127

○グループ基礎利益は減益となるも、2017年度以降の過去3カ年水準を維持

■ グループ基礎利益の推移 (単位:億円)



(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、第1四半期グループ業績への反映期間は1月から3月までの3ヵ月

(注3) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値

1. 保険料等収入、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料

■ 保険料等収入の状況

	2020年度 第1四半期累計期間	
		前年同期比
保険料等収入	5,629	△13.7%
うち個人保険・個人年金保険	3,670	△10.6%
うち営業職員チャンネル	3,088	△9.0%
うち銀行窓販チャンネル	485	△20.2%
うち団体保険・団体年金保険	1,842	△20.8%

(単位:億円)

2019年度 第1四半期累計期間
6,522
4,104
3,393
608
2,325

■ 新契約年換算保険料の状況 (個人保険・個人年金保険)

	2020年度 第1四半期累計期間	
		前年同期比
新契約年換算保険料	156	△35.9%
うち営業職員チャンネル	132	△37.4%
うち銀行窓販チャンネル	20	△26.6%
うち第三分野 ^(注)	58	△38.5%

(単位:億円)

2019年度 第1四半期累計期間
243
212
27
95

■ 保有契約年換算保険料の状況 (個人保険・個人年金保険)

	2020年度 第1四半期会計期間末	
		前年度末比
保有契約年換算保険料	22,108	△0.7%
うち第三分野 ^(注)	4,444	△0.2%

(単位:億円)

2019年度末
22,267
4,452

○保険料等収入は、5,629億円と前年同期比13.7%減少

・個人保険・個人年金保険は、前年同期比10.6%減少。営業職員・銀行窓販両チャンネルともに、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発令を受けた営業活動の自粛による影響が主因

・団体保険・団体年金保険は、前年同期比20.8%減少。前年同期に大口契約の保険料収入があったことの反動減により団体年金保険が減少したことが主因

○新契約年換算保険料は、緊急事態宣言発令を受けた営業活動の自粛による影響等により、前年同期比35.9%減少

(注) 第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

2. 基礎利益

■ 基礎利益の状況

(単位: 億円)

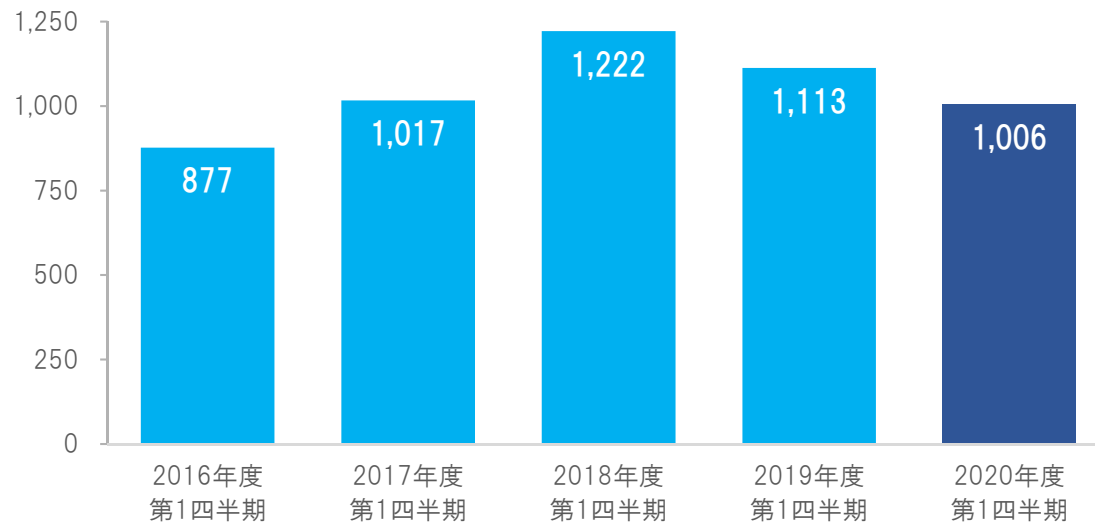
	2020年度 第1四半期累計期間		2019年度 第1四半期累計期間
		前年同期比	
基礎利益	1,006	△9.6%	1,113

○基礎利益は、1,006億円と前年同期比9.6%減少

- ・ 営業職員数増加等に伴う人件費の増加、コロナ禍の企業活動への影響等に伴う団体保険の保険料収入の減少による影響等が主因

■ 基礎利益の推移

(単位: 億円)



VII. スタンコープ社の業績【参考】

スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益

■ 保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益の状況 (注1)

(単位: 億円)

	2020年度 第1四半期累計期間		2019年度 第1四半期累計期間
		前年同期比 (注2)	
保険料等収入	781	+6.2%	735
基礎利益相当額 (注3)	121	△4.7%	127
当期純利益	78	△2.2%	80

* 2019年度第1四半期は2019年3月末の為替レート (1米ドル=110.99円)、2020年度第1四半期は2020年3月末の為替レート (1米ドル=108.83円) で円換算

(注1) スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、第1四半期グループ業績への反映期間は1月から3月までの3ヵ月分

(注2) 現地通貨ベースでの前年同期比は保険料等収入+8.3%、基礎利益相当額△2.8%、当期純利益△0.3%

(注3) 基礎利益相当額は、税引前利益からキャピタル損益や買収会計に伴う無形資産償却費用等を控除したもの

- 保険料等収入は、主力の団体保険事業で既契約更新が良好に推移するなど、781億円と前年同期比6.2%増加
- 基礎利益相当額は、団体保険事業の給付率の上昇や為替相場が円高に推移したことにより、121億円と前年同期比4.7%減少
- これらを受けて、当期純利益は78億円と前年同期比2.2%減少
- スタンコープ社の保険料等収入および基礎利益相当額は好調を維持しており、同社買収以降、継続してグループ業績に貢献

■ 保険料等収入の推移 (単位: 億円)

■ 基礎利益相当額の推移 (単位: 億円)

